



写真と文：足立 攝

大分県 現代俳句協会 会報

第132号

令和6年12月25日

現代俳句歳時記 【クリスマス・降誕祭】

12月25日はキリスト誕生の祝日であるが、バブル期前後は「クリスマスは恋人と過ごす日」という価値観に支配され、シティホテルは半年前、一年前には予約がぎっしり埋まっていた。今昔の感がある。

クリスマス昔煙突多かりし 島村 正

この総会は今和七年度の当協会の方針を決定する重要な会議です。とりわけ今回は十年に一度回ってくる「九州現代俳句大会」の当番県になり、当協会が開催母体になります。（10月25日（土）のホルトホール開催が決まっています）大会の成功は投句数にかかっています。いかに多くの作品を集めることができるか、また大会当日、九州各県からの参加者の満足度をいかに向上させることができるか、私たちの力量が問われます。このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

総会に参加しよう!!

2月24日(休)10時半開会
ホルトホール

大分県現代俳句協会第35回定期総会を2月24日（月・休日）の10時半から、大分ホルトホールの302会議室で開催します。コンパルホールと勘違いする人がいますので、ご注意ください。

この総会は今和七年度の当協会の方針を決定する重要な会議です。とりわけ今回は十年に一度回ってくる「九州現代俳句大会」の当番県になり、当協会が開催母体になります。（10月25日（土）のホルトホール開催が決まっています）

大会の成功は投句数にかかっています。いかに多くの作品を集めることができるか、また大会当日、九州各県からの参加者の満足度をいかに向上させることができるか、私たちの力量が問われます。このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

このほかに、現代俳句勉強会や県協会吟行大会、くじゅ

午後は恒例の懇親句会開催

うやまなみ牧場俳句大賞などの、イベントや主催行事、後援行事などについても話し合われます。今回は役員改選大会ではありませんが、実情に応じた若干の役員人事が提案されます。顕彰の部では、「第27回大分県現代俳句協会賞」の発表と表彰、「令和6年度年間一句賞」の発表と表彰が行われます。総会のあとは参加者全員で弁当を食べ、恒例の懇親句会を開催します。懇親句会は事前に各自2句の投句が必要です。総会、懇親句会を通じて会員以外の方も自由に参加出来ます。（ただし総会は議決権はありません。懇親句会は全員平等です）総会は無料ですが、懇親句会は弁当、資料代として千円必要です。当日会場で徴収します。事前投句の締切は2月18日（火）まで、事務局宛にハガキやFAX等でお送りください。

令和六年度 第一回雑詠句会 結果発表

種袋切れれば呼吸をはじめけり

〈18点〉 山口 雀昭

薄氷を踏む少年の反抗期

〈16点〉 時松由美子

反骨のかたちに伸びるとろろ汁

〈16点〉 立花真由美

つばめ来るいつも通りという奇跡

〈15点〉 岸本千鶴子

人生を笑顔で煮込む去年今年

〈13点〉 時松由美子

くたびれた柚子を数えるしまい風呂

〈13点〉 吉田 素子

薄氷の記憶の底にある昭和

〈13点〉 足立 攝

空箱に春の噂が忍び込む

〈13点〉 河野 則子

〈12点〉
姉の忌の落葉掃いてもまた戻る

足立 攝

名を呼ばれわが名が好きになる小春

赤峯 友子

初夢というあやふやな舟を漕ぐ

足立 攝

〈11点〉

着ふくれて浮世話が紛れ込む

立花真由美

無口なる夫の存在せき一つ

河野 洋子

重体の地球から出る軽い咳

山口 雀昭

〈10点〉

百年を夢見し父の農日記

御手洗豊海

晩学や回転木馬に春は乗る

菅 攝子

寒星がコツンと僕に生きている

有村 王志

諦めも選択肢なるつくづくし

河野 洋子

善人の貌して黄泉へゆく霜夜

赤峯 友子

やわらかな記憶溶かしてゆく初日

上田たかし

夢ひとつポケットに詰め春を待つ

坂本 一光

日向ぼこ「ポー」と生きてて「何故悪い

山口 雀昭

〈9点〉

来し方の足し算引き算臥龍梅

加納 知子

〈8点〉

消しゴムの屑の行方や除夜の鐘

河野 則子

名を呼ばれ妻に戻れり初曆

足立 町子

今生の奥へ奥へと木の実落つ

赤峯 友子

茜さす百万本の霜柱

時松由美子

凧がまちぶせている五番線

足立 町子

〈7点〉

ゲルニカの愚か幾たび冬北斗

坂本 一光

バスの子に手を振る母や能登は雪

佐藤 律子

ほつほつと恋の子感や冬木の芽

高橋 玲子

※以下は句会報26号参照



現代俳句勉強会に35人

県協会主催の「現代俳句勉強会」が、今年も9月28日、大分コンパルホールで開催されました。会場には大分市のほか豊後高田市や九重町から35名が参加しました。

有村王志会長の挨拶で幕を開けた勉強会は、足立攝幹事長の司会で進行しました。まず参加者の事前投句全82句を、一人七句選(特選なし)で選考します。82句から7句選ぶ作業はなれた会員ならものの10分ほどしかかかりませんが、俳句初心者にとつてはこれがかんりの難行になり、結局全員の選句が揃うのが30分以上かかりました。しかし、これが勉強です。作品をいかに深く読むか、いかに速く読むかは、結局慣れ。場数を踏む以外に近道はないし、場数さえ踏めば誰でも身につくスキルであることを確認しました。

この日の最高点は13点で、佐々木玉さんの作品「煩惱を底に沈めて水澄めり」でした。「水がはれやかに澄む」ということは、煩惱がなくなる状態のことだ。我々の社会の

『家庭の安らぎ』あるいは『世界の平和』なども、これと同じことではないだろうか」という会員の発言に会場は「おお」とどよめきました。勉強会では「切ればなぜ必要か」「季語の必要性」「季が動くとは」「文語か口語か」などたくさん質問が出されました。この勉強会の高得点句は以下の通りです。

13点
煩惱を底に沈めて水澄めり
佐々木 玉

11点
手のひらは無限の自由零余子落つ
有村 王志

8点
愚痴聴いて消ゆる二合の新走り
江藤 正光

満月や母の顔して昇りくる
高橋 玲子

県協会吟行大会 in 川添

10月12日(土)、川添公民館2階の集會室で県協会の第21回吟行大会が開かれました。成清正之元会長が育てた川添俳句教室が母体となり、実行委員会(江藤正光会会長)が、お世話役を務めました。

【大会大賞】3名

抱くやうに子の服脱がす鴨のとき
牧野 桂一
和が胸に山河いだくや秋日和
仲摩 江美
夢を見ていられる時間曼珠沙華
石橋紀公子



川添公民館2階集會室

Ⅱ 県協会後援行事Ⅱ

第3回「くじゅうやまなみ牧場俳句大賞」



10月26日(土)、第3回目となる「くじゅうやまなみ牧場俳句大賞」の行事が、やまなみ牧場和室を会場として開催されました。晴天にも恵まれ受賞者ら約50名が集まりました。

この大会は、県協会の足立攝幹事長、古後粒勝副会長が応募句の選にあたり、これに牧場側から安部スエノ専務が加わった合議制で入賞句が決定します。昨年からの選句方法を前期、後期に分け、それぞれの入選者から、

さらに絞り込んで年間の受賞者を決定する方式に改めました。これにより選の精度が高くなりました。これ大賞に選ばれた作品は、牧場の敷地に句碑が建てられ、この牧場とともに歴史が刻まれることとなります。今年には九重の甲斐加代子さんの作品の句碑が建てられました。

大会は牧場の足立章氏の司会で始められ、安部政児元社長の挨拶のあと、入賞作品の発表と表彰、受賞者



の挨拶などが行われました。受賞者が参加することが応募の条件なので、この日は全ての受賞者が会場に揃いました。

このあと県協会から足立幹事長、古後副会長が講評を行い、受賞者の労をねぎらいました。休憩のあと全員で牧場の湖畔に集まり、句碑を建てる儀式を行いました。本年度大賞の甲斐加代子さんがシャベルで土を

かけると、参加者から大きな拍手が送られました。最後に全員で記念写真を撮りました。入賞作は、以下の通りです。

【大賞】

万緑に染まる羊と染まりけり
九重町 甲斐加代子

【準大賞】

ヨーグルトごくりと入道雲の味
豊後大野 後藤 洋子

羊らがもぐもぐ秋の雲を食む
大分市 赤峯 友子

【入賞】

薫風や歌いだす寸前の馬
豊後大野 後藤 洋子

どの子にもくじゅうの風や羊雲
玖珠町 豊國 隆信

馬の背の揺れの二拍子草いさげ
九重町 高倉 直人

サングラス外して熊とにらめっこ
玖珠町 豊國 隆信

ヒゴタイや穴井太の原郷林
九重町 幸谷 恵子

大粒の雨ひとしきり稲の花
九重町 竹石 末子

洗われた馬の匂いや夏牧場
竹田市 油布 晃

【小中学生の部】

どんぐりが落ちた拾ったまた落ちた
吉井町(小5) 保坂 千咲

『花すすき』出版祝賀会に30人



甲斐加代子さんに花束を贈る林香澄さん

九重町の甲斐加代子さんが9月30日、第二句集「花すすき」を文學の森社より上梓しました。1987年に刊行された第一句集「湯けむり」以後の集大成の句集になります。

甲斐加代子さんと言えば、九重町では知らない人のいない著名人で、筋湯温泉きつての老舗旅館「宝珠屋」の女将を長く勤め、近年大女将に就任しました。また代々の文学一家に育ち、この地に赴任していた穴井太（故人・俳誌天籟通信の創始者）の生徒であり、彼から直接の俳句の手ほどきを受けています。県協会の設立時のメンバーでもあります。

（その後しばらく県協会を離れたが、2018年に再入会）受賞歴はこれまで数知れませんが、そんな加代子さんの「花すすき」出版の記念祝賀会を、県協会の副会長でありこのえ寿大文学俳句ゼミ講師でもある古後粒勝さんがプロデュースしました。

11月28日、会場である「名水の宿・宝珠屋」に、このえ寿大文学俳句ゼミ、わいた句会、さくら草句会、高原句会の当地在住の俳句会を中心に、加代子さんにゆかりのあるメンバー約30名が集まりました。

祝賀会では、県協会足立攝幹事長が講話し、「十七音で説明すれば、十七音分の説明しかできません。俳句はその極端に短いというハンデイを、逆に長所に変えた文学です。一番言いたいことは書かずに、逆に読者に想像させることで、俳句は原稿用紙何枚にもなる世界観を表現します」と述べました。この後会場を3階の大広間に移し、乾杯の音頭を高原句会の赤峰佐代子さんが行いました。司会をわいた句会の高倉直人さんです。

挨拶や寸劇、感銘句の発表などが続き、勉強3分、歓談7分の俳人らしい会合で、さくら草句会の甲斐素純さんの万歳三唱で幕を閉じました。心のこもった料理と相まって忘れられない祝賀会になりました。



句集「花すすき」自選句

絵手紙をはみ出しながら野火走る生涯は道草ばかり春りんどう
この風は父かも知れぬ青田道
風薫る村に沈める余生あり
嫁にゆずるひとつは梅の塩加減
今朝ありてこの湯けむりと初明り

〓 予告 〓

「第15回九州現代俳句大会」10月25日に決定

十年ぶりに大分が担当県

二年に一度開催されている「九州現代俳句大会」が、10月25日（土）に大分ホルトホールで開催されます。主催は九州現代俳句連合会ですが、当番県にあたる当協会が運営に全面的に責任を負います。

前回の開催県である熊本から引きつぎ、次の宮崎県へと引き渡すまでが当協会の担当になります。

この15回大会を成功させるために、6月15日、県在住の本部会員と県協会の役員がコンパルホールに集まり、「第15回現代俳句大会 in 大分」の結成大会を行い、以下の項目を確認決定しました。（会報131号既報）

- ・実行委員会会長は有村王志会長
- ・事務局長は足立攝幹事長
- ・その他の役員は当協会役員が兼任
- ・当協会の第35回現代俳句大会は単独で行わず九州大会と合同開催

- ・黒字を出すために一五〇〇円以上の投句を目標にする
- ・従来行われていた前日の懇親会は行わない。宿泊の斡旋もしない

大会母体の九州現代俳句連合会はこれまで現代俳句協会九州地区連絡会と呼ばれていました。これは現代俳句協会（本部）の方針に添ったことですが、2023年の本部の一般社団法人化にもなつて、その設立基盤が消滅してしまいました。そのため2023年の熊本大会の理事会で対応が協議され、現在の名前に変更されました。

また、本部からの補助金が打ち切られたため、運営費を各県が供出する体制に変わりました。具体的には毎年各県が5千円を負担することになります。

すると少しの矛盾が出てきます。これまでは運営費は本部から出され、

運営は本部会員である各県の会長と事務局長が理事として担ってきましたので、そこに矛盾はありません。ところが毎年わずか5千円とはいえ、県協会が供出するのであれば、運営母体は本部ではなく県協会ということとなります。県協会は本部会員だけで構成されているわけではありません。本部会員でない県独自の会員が多数です。すると本部会員ではない会員を全て含めて、九州現代俳句連合会の構成員ということになるを得ません。

熊本大会のときに全県の理事会が開かれ、この部分を討議したのですが、熊本県が示した「九州現代俳句連合会規約」には、この討論の結果が活かされていません。それで大分大会で最終的に規約を決定したいと思っています。

また毎年3〜6月の「大分県現代俳句大会」は、次回は「第35回大会」になるところですが「九州現代俳句大会」開会にともない、これと合同して開催することにしました。そのため時期が4ヶ月ほど遅れることとなります。「九州俳句大会」の具体的な内容が明らかになるのは2月の総会以降です。ここでは現時点での決定事項のお知らせでした。



当協会年会費二千円は来年度も据え置きが決定。
会費納入に「協力ください」。

12月1日(日)に当協会幹事会、12月7日(土)に役員会が開催され2月24日に開催される第35回総会に提出する議案について協議、決定しました。郵便料金を始め物価高騰の中でですが、来年度の年会費は据え置くことに決定しました。

本協会の会計年度は1月～12月です。振込用紙を同封していただきますので早めの納入にご協力ください。

「自転車が似合うまち

おおいた

標語コンクールの選考に参加

10月24日(木)、大分市の都市計画部都市交通対策課から依頼のあった、標語コンクールの選考のため、足立撮影幹事長、足立町子幹事、赤峯友子幹事の3名は大分市庁を訪れました。

寄せられた1140作品の中から、小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部、特別賞の5部門で評価し、市の担当者とともにそれぞれの賞を決定しました。



【寄贈書籍紹介】

2008年から本部会員であり、先ごろ県協会に入会した薬師寺裕二さんの第一句集です。自鳴鐘叢書、2014年から2022年の約10

年間の作品が「夏の空」「冬座敷」「二日づつ」「隠岐島」「五年今年」「あやね」の6章に分かれていて、一冊がさながら俳人薬師寺裕二の成長の記録のようにも読めます。

特に母親との暮らし、母親への愛情、その母親との別れという、人生の普遍的ともいえる領域に、やさしさや切なさだけでなく、鋭く詩人の目で切り込んだその切っ先に見える余情に、胸が熱くなります。

夏めくや母の明るき物忘れ
春障子深夜を軋む母の杖
母在りし日は猫もいて雛祭り
母と子の最後のノート母子草

(事務局抄出)



【寄贈書籍紹介】

当協会協会賞選者で、熊本県現代俳句協会副会長の中山宙虫さんが代表を務める霏霏IIの16号(秋号)が、10月1日付けで発行されました。頒布価格は一冊二〇〇円(税込込み)。

星永文夫氏の「霏霏」の後継誌としてスタートして以来、毎回進化をとげ、今では宙虫さん色がしっかりと濃くなっています。

会員の自選句のほか選評、エッセー、添削、俳句に対する読み物等、面白く読み応えがあります。宙虫さん執筆の指導コーナー「SO!らん!D O!」のほか、星永氏の「俳句いろは塾」「選句選評講」も健在です。

雨は好きかい亀虫ぼとりぼとり落ち
仙人掌の花が黄色い民主主義
ポラリスを啜え蝙蝠だと名乗る
秋が好き秋刀魚を焦がす家が好き

(宙虫氏作・事務局抄出)



【寄贈書籍紹介】

当協会協会賞選者の伊藤利恵さんが主催する各月開催の通信句会「ジルーバ」の、コロナをはさんだ過去三年の集大成となる合同句集。会員は現在11名で、うち5人が当協会の会員です。合同句集としては実にユニークで、自選の20句のほか、各会員に対して1句の選評が11名全員分収録されています。同時に11名各人各様のエッセーが載っていて、目の付け所に思わず笑みがこぼれます。また

詩と俳句のコラボ、詩のページ、短歌のページと意表を突きます。普通の句集と思つたら大間違いという声が聞こえてきそうです。

紅葉且つ散りて宇宙はふり出しに
人体を取り出す夜更けのコートかな
まるまると乳酸は太る涅槃西風
いつぼんの紐が束ねてゐるおぼろ

(利恵氏作・事務局抄出)

《新会員紹介》

垣野ひろ子(兵庫)
 ※新入会で作品がありません
 新志 光夫(天分)
 終り無き戦火にひとそと一夜草
 甲斐 伸子(天分)
 老人をやさしく灯す葉鶏頭
 川畑英里花(別府)
 地球アラートどんぐりを備蓄せよ
 田原 夏子(天分)
 紫蘇の実を漬けて介護の手にもどる

令和6年度
自薦作品募集

- ◇会員なら誰でも参加できます。
- ◇当協会の日常活動なので無料。
- ◇当季雑詠で、当勉強会に未発表のものも4句送ってください。
- ◇締切は一月二十四日。第二回雑詠句会の選句締切と同じです。
- ◇同封のFAX用紙を利用して、お近くのコンビニから送れば便利です。50円で送れます。
- ◇ハガキ、メール等でお送りください。さつてもかまいません。読めさえすれば方法は問いません。
- ◇宛先は事務局足立まで。
- ◇作品は自動的に年間一句賞の対象になります。
- ◇詳しくは句会報26号を。

丘 友子(天分)
 如月や骨まで反戦兜大遊々
 一瀬 祥子(日田)
 冬初本気出してもあかぬ蓋
 竹下 邦子(豊後大野)
 ふらふらこや今は漕ぐのが嫌になり

《退会》

陣野千恵子(4月1日付け)
 由布 晃(8月1日付け)
 山口 雀昭(9月5日付け)



三重町狩野句会には70年以上の歴史を持つ句会です。現在会員25名。その礎を築いた現会長の上田たかし氏と、6年前91歳で亡くなるまで会長を務めた足立雅泉氏に、10月20日、狩野句会から感謝状が贈られました。



11月10日、川添公民館で「川添ふれあいまつり」が開催され、展示の部では川添俳句教室の作品が披露されました。

手作りの竹細工の台紙に飾られた俳句には、この俳句教室の産みの親である成清正之元大分現俳協会長の本人直筆の作品が展示されました。いつまでふたりいつからふたり ちろろ鳴く

生国を知らぬ蠨螂空へ放つ
 そのほか、全教室生の俳句作品もひとり2句ずつ展示されました。

35回定期総会後の「懇親句会」
作品募集中心

一面詳細のように、2月24日の定期総会のあと開催される「懇親句会」に参加予定の方は、2月18日(火)までに、事務局宛にハガキやFAX等で自作一句をお送りください。
 懇親句会には弁当代と資料代で一人千円かかります。当日徴収です。

令和六年十二月二十五日発行
 会報第百三十二号
 発行人・有村 王志
 発行所・大分県現代俳句協会
 編集人・足立 攝



大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436

足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL:http://gendaihaiku.net

E-Mail: info@gendaihaiku.net

